学校番号	３０１３

令和３年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「改定 高等学校 地学基礎」（第一学習社）						
副教材等	「改訂版フォトサイエンス地学図録」（数研出版）「センサー地学基礎　改訂版」（啓林館）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自分たちが住む地球、そしてその周りの宇宙について、基本的なことを知ってさらに興味を持ち、地球がもっと好きになってもらえれば…と思います。
教科書の第２章「地球」から、授業はスタートします。

２ 学習の到達目標

日常生活や社会との関連も図りながら、地球や宇宙への関心を高め、目的意識を持って観測し、探求する能力と態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球をとりまく宇宙に関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	地学的な事物･現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現している。	地学的な事物･現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それら科学的に探究する方法を身につけ、観察･実験の結果から導き出した自分の考えを的確に表現する。	地学的な事物･現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況/発問評価 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録	定期考査 学習状況/発問評価 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録	定期考査 学習状況/発問評価 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録	定期考査 学習状況/発問評価 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録
上に示す観点に基づいて、学年末に５段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	固体地球・地球史	地球	○				a:地球のサイズや形、内部構造に関心を持ち、意欲的に探究する。 b:どのような根拠からプレートテクトニクスが導かれたか、先人の跡をたどりながら考察し、導き出した考えを表現できる。 c:プレートの動きについて探究活動を行い、自分で発見しなおすことで、そのスピードを実感する。 d:地球上の生物の進化について理解し、知識を身に付けている。	定期考査 学習状況 ノート・ワークシート
		活動する地球		○				
		地球史の読み方			○			
		地球と生命の進化				○		
	大気・海洋	大気の構造				○	a:世界と、自分が住む地域日本の気象に関心を持ち、意欲的に探究する b:大気の循環について、対流、地球の自転をもとに考察し、導いた考えを表現する。 c:海水の循環が世界の気候に与える影響について探求する d:大気の構造について理解し、知識を身に付けている。	
		大気の循環		○				
		海水の運動			○			
		気象	○					
後期	宇宙の構成	太陽系	○				a: 太陽系の天体について、と、その生成の歴史について、関心をもち意欲的に探究しようとする。 b:恒星の進化を理解し、HR 図をもとに説明できる。 d:銀河系について理解し、知識を身に付けている。	定期考査 学習状況 ノート・ワークシート
		恒星の進化		○				
		銀河系と宇宙				○		
	自然との共生	地球環境と人類			○		c:地球環境と人類の関係について、自分たちの生き方の選択についても探究する。 d:災害について理解し、知識を身に付けている。	
		地震・気象災害と社会				○		

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。